

NCGMの

ミッションと取り組み、展望

平成24年7月26日

独立行政法人 国立国際医療研究センター

独立行政法人国立国際医療研究センター（NCGM）の概要

1. 設 置

平成22年4月1日設立

「高度専門医療に関する研究等を行う独立行政法人に関する法律（平成20年法律第93号）」

2. 理 念

国立国際医療研究センターは、人間の尊厳に基づき、医療・研究・教育・国際協力の分野において、わが国と世界の人々の健康と福祉の増進に貢献します。

- 世界に誇れる最善の医療と研究・教育を目指します。
- 明日を担う優れた医療人の教育と育成に努めます。
- 医療・研究・教育・医療協力の成果を広く社会に発信します。
- 医療協力を通じて国際社会との架け橋になります。

3. 役職員数（常勤）

1,576人 役員数 3人（平成24年4月1日現在）
職員数 1,573人（平成24年1月1日現在）

4. 組 織（平成24年4月1日現在）

理事会、企画戦略局、コンプライアンス室、研究所、臨床研究センター、病院、国府台病院
国際医療協力局、国立看護大学校、統括事務部、監査室

5. 研 究 所

7研究部、糖尿病研究センター、肝炎・免疫研究センター

5. 臨床研究センター

疫学予防研究部、医療情報解析研究部、臨床研究支援部、開発医療部

6. 病 院

《規模等》センター病院 運営病床数：771床
（一般病床689床、結核病床40床、精神病床38床、感染病床4床）

- ・エイズ治療・研究開発センター
- ・国際感染症センター
- ・救命救急センター

国府台病院 運営病床数：353床
（一般病床218床、精神病床135床）

《患者数》（平成23年度実績）

センター病院	1日平均入院患者数	627.8人
	1日平均外来患者数	1,603.5人
国府台病院	1日平均入院患者数	278.2人
	1日平均外来患者数	769.4人

7. 国際医療協力局（平成23年度実績）

海外派遣者数 115人
海外からの研修受入数 202人

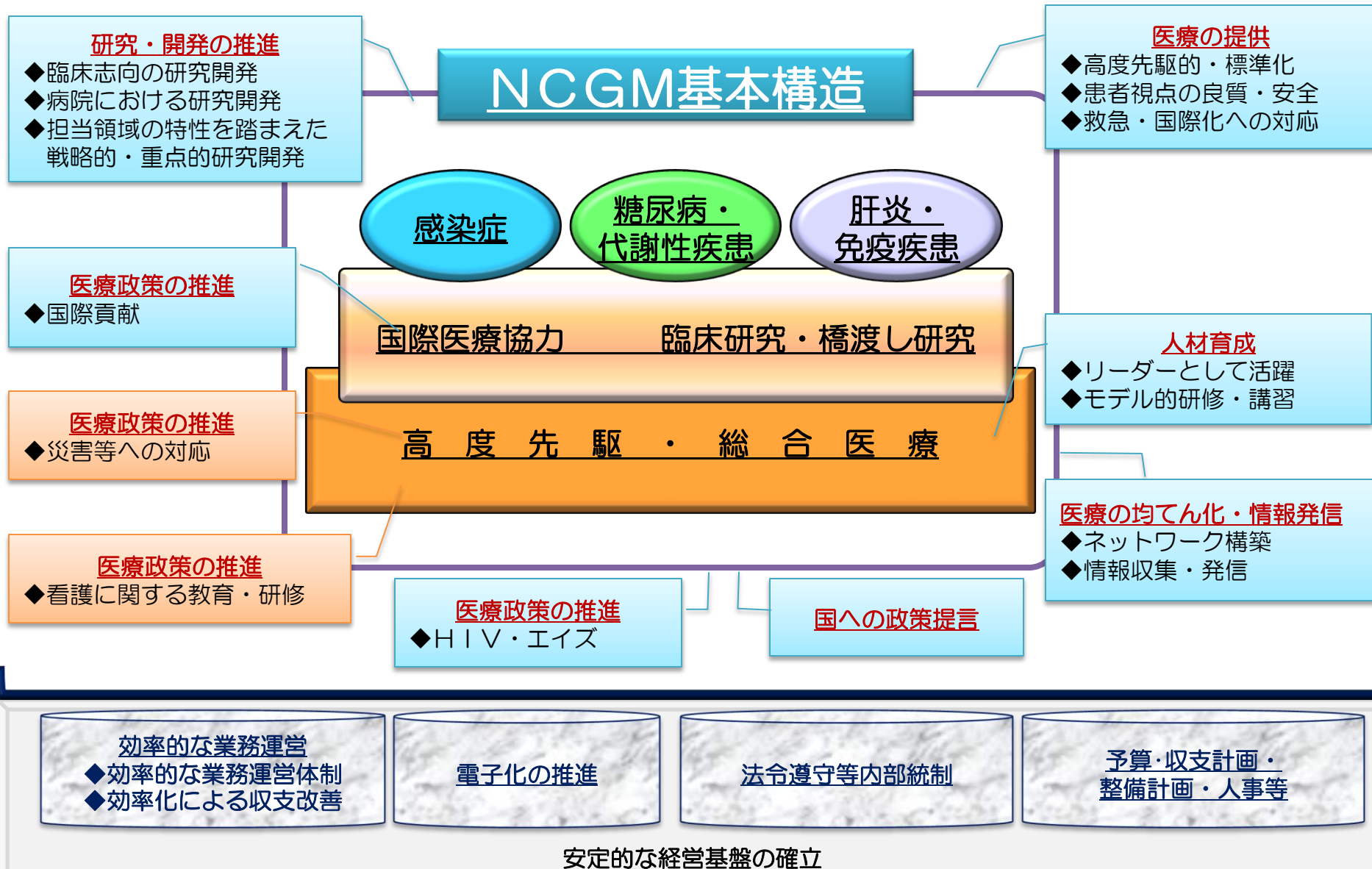
8. 国立看護大学校（平成24年4月1日現在）

学生数 432人 看護学部 410人
研究課程部 22人

9. 財 務

- 中期計画期間累計で収支相償の経営を目指す。
- 平成23年度実績
総収支 △19.3億円（総収支率94.4%）
経常収支 △18.5億円（経常収支率94.6%）

NCGMのミッションと基本構造



平成23年度における主な取り組み ~その1~

【研究・臨床研究】

◆ 臨床を志向した研究・開発の推進

- 研究所と病院等、センター内の連携強化
 - ・ 開発医療の推進のため、開発医療部の新設
 - ・ 臨床研究支援体制の強化
 - ・ 臨床研究・治験センターの設立（国府台地区）
- 産官学等との連携強化
 - ・ 早稲田大学理工学部と研究者同士の交流会の開催（WANCOの会 1回、医療化学懇談会 3回）
 - ・ 理化学研究所との共同研究の実施
 - ・ 治験環境の整備や、治験に係る人材育成
 - ・ 開発初期の臨床研究：共同研究20件（対前年度+13件）（民間13件、大学1件、民間・大学6件）
- 研究・開発の企画及び評価体制の整備
 - ・ 事前評価委員会と中間・事後評価委員会を分離して運用
 - ・ 評価にあたり配点基準を示し点数化、客観的な評価を実施
- 知的財産の管理強化及び活用推進
 - ・ 全職員を対象にした知財に関する説明会を開催
 - ・ 知財に関する管理体制強化のため、知財開発室の設置
 - ・ 国内における新規発明出願件数 国内10件、海外11件

◆ 病院における研究・開発の推進

- 臨床研究機能の強化
 - ・ 臨床研究センターの体制強化
 - ・ 治験実施症例数 195件（対前年度+12件）（戸山地区131件 国府台地区64件）
 - ・ 治験申請から症例登録までの期間 90.5日（対前年度▲19.5日）（戸山地区93.0日 国府台地区86.3日）
- 倫理性・透明性の確保
 - ・ 外部専門家を加えた倫理委員会の適正な運営
 - ・ 委員会の定期的な開催（一般10回、遺伝子解析研究4回）
 - ・ 倫理委員会の結果をホームページで公表
 - ・ 臨床研究認定制度の運用による研究者への倫理に関する教育の強化



◆ 担当領域の特性を踏まえた戦略的かつ重点的な研究開発の推進

- 疾病に着目した研究
 - ・ HIV新規感染者への耐性検査の実施、薬剤耐性状況の把握及び遺伝子解析を116例実施
 - ・ HIV感染者への自己骨髄細胞投与による肝硬変の治療を実施
 - ・ 糖尿病合併症、慢性肝疾患、免疫疾患の基礎・臨床研究を実施
 - ・ 治験を含む臨床研究の合計実施数 212件
- 均てん化に着目した研究
 - ・ かかりつけ医向け及び糖尿病専門医向けのマニュアルの更新
 - ・ 肝炎拠点病院間連絡協議会、医療従事者向け研修会を開催
 - ・ エイズ医療についてホームページの更新
 - ・ 糖尿病の最新のエビデンスを医療従事者向けに配信
 - ・ 肝炎について最新情報をホームページで公開、相談センターとのリンク
- 国際保健医療協力に関する研究
 - ・ 国際保健協力データベース作成と情報発信に関する研究
 - ・ 開発途上国における新興・再興感染症サーベイランスに関する研究
 - ・ 開発途上国におけるHIV対策の評価及び改善に関する研究
 - ・ 熱帯東南アジアにおける新型インフルエンザH1N1による疾病負担ならびに超過死亡に関する研究
 - ・ 開発途上国の新生児・小児ケアにおける質向上のアプローチに関する研究
 - ・ 開発途上国の公的医療機関における患者中心のサービス実施の方策に関する研究
 - ・ 紛争後国家や脆弱国家における保健人材開発制度の確立に関する研究
 - ・ 国際保健の新しい潮流と今後の展望について調査・研究した
 - ・ ベトナムバクマイ病院と協定を締結し、ネットワークを活用した研究
 - ・ ネパールのマラリア対策と保健システムについて調査・報告

平成23年度における主な取り組み ~その2~

【診療】

◆ 高度先駆的な医療、標準化に資する医療の提供

○ 高度先駆的な医療の提供

- ・ HIV・エイズ患者に対し個々人の病態に即した医療を682例実施
- ・ インフルエンザの重症化を招く要因を調査分析し、重症ARDSの臨床研究を実施
- ・ インターフェロン治療の効果予測として実際の患者さんで測定を実施
- ・ 連続血糖測定が可能なシステムを活用したテラーメイドの糖尿病治療の実施
- ・ 先進医療について既存技術2件を実施。更に先進医療既存技術2件、先進医療新規技術3件、高度医療新規技術1件を申請準備



○ 医療の標準化を推進するための最新の科学的根拠に基づいた医療の提供

- ・ 電子ジャーナルを整備し電子カルテシステムとの連携
- ・ 医療の質の均質化を図るためカンファレンスへの取組を強化
- ・ 研究所の各種カンファレンスへ医師が参画し最新の研究成果を共有

◆ その他医療政策の一環として実施すべき医療の提供

○ 救急医療の提供

- ・ 救命救急センターの状況
救急車搬送患者数 11,695人
(対前年度+822件)
時間外救急患者数 21,767人
(対前年度+1,803件)
- ・ 国府台病院精神科救急病棟新入院患者のうち重症身体合併患者の割合 34.7%
(対前年度+21.7%)



○ 国際化に伴い必要となる医療の提供

- ・ 海外渡航前健診とワクチン接種などの渡航相談、帰国後疾患治療を実施
総初診患者数 3,297名 帰国後疾患診療初診者数358名
入院患者数 71名
- ・ ミャンマー難民受入（政府の要請）
- ・ 総合感染症後期研修プログラムによる研修の実施
- ・ トラベラズワクチン講習会の実施

◆ 患者の視点に立った良質かつ安心できる医療の提供

○ 患者の自己決定への支援

- ・ カルテの開示請求に迅速に対応するための体制強化
- ・ 個人情報保護研修会の開催
- ・ 患者相談窓口の支援体制の強化
- ・ セカンドオピニオンの実施件数 231件

○ 患者等参加型医療の推進

- ・ 患者サービス推進委員会を定期的に開催
- ・ 患者満足度調査によるサービスの改善
- ・ 意見箱の活用とボランティアの活動の推進

○ チーム医療の推進

- ・ 医師・看護師・コーディネーター・ナース等によるチーム医療をHIV・エイズの90.9%の患者に提供
- ・ 糖尿病分野及び肝炎とHIVとの重複感染患者の医療においてチーム医療を100%の患者に対し実施
- ・ 国府台病院では、各診療科の入院患者で「こころ」の問題を示した患者に対し、心の診療に携わる各科が対応したのは254例

○ 入院時から地域ケアを見通した医療の提供

- ・ 新宿区、新宿区小児科医会と協議し、地域連携の休日夜間の小児救急を週に2回（年間98回）実施
- ・ 診療所との連携について、地域の医師との意見交換会、震災対応をテーマとしたシンポジウムを開催、近隣の医療従事者、地域住民も受講可能なりトリートカンファレンスの開催 11回開催
- ・ 地域医療連携強化のための院内体制の強化

○ 医療安全管理体制の充実

- ・ 医療安全委員会の定期的開催
- ・ ヒヤリ・ハット事例の検証と対策の協議、情報共有
- ・ 医療安全ポケットマニュアルを改定し全職員に携帯を義務づけ
- ・ 院内感染にかかわる研修会の開催
- ・ 診療連携医療機関との院内感染対策地域連携の開始

○ 客観的指標等を用いた医療の質の評価

- ・ 医療の質の評価に必要な基礎データを取り出すため、必要な医療情報システム環境（データウェアハウス）を整備
- ・ 病院機能評価Ver6の認定



平成23年度における主な取り組み ~その3~

【教育研修】

◆ リーダーとして活躍できる人材の育成

- ・初期研修医105名、後期研修医144名、フェロー41名
- ・初期臨床研修のマッチングは市中病院中全国トップ
- ・医師臨床研修指導医養成講習会を開催し指導体制を強化
- ・初期研修カリキュラムに疫学・医学統計基礎講座を設置
- ・後期研修カリキュラムに研究体験のコースを設置
- ・若手医師を対象にした海外留学制度を整備
- ・こころの健康づくり対策事業思春期精神保健研修事業
- ・看護師の卒後臨床研修を実施



◆ モデル的研修・講習の実施

- ・エイズ拠点病院などの医師・看護師を対象とした研修会を実施
- ・全国の医師を対象に輸入感染症対応の講習会を開催
- ・ワクチンの教育振興の一環としてトラベラーズワクチン講習会を実施
- ・「糖尿病診療—最新の動向—」と題した医師・医療スタッフ向け研修会を開催（全国3か所延べ5回）
- ・精神科心理教育研修2回、摂食障害医療研修1回を実施

【情報発信】

◆ ネットワーク構築の推進

- ・HIVに関し、全国8ブロックのブロック拠点病院協議会を厚生省疾病対策課と合同で各ブロックで開催
- ・肝炎情報センターでは拠点病院間連絡協議会を2回、医療従事者向け研修会を4回開催
- ・児童精神科地域連携会議を6回開催

◆ 情報の収集・発信

- ・ホームページアクセス数 1,430万件（対前年度+131万件）
- ・HIV感染症に関して、信頼のおける情報を入手しやすいホームページに改訂
- ・輸入感染症（マラリア、デング熱、腸チフスなど）や一類感染症（ラッサ熱）に関する医療者向け情報を提供
- ・一般の海外旅行者向け情報（マラリア予防、下痢症予防）をホームページで情報提供

◆ 国への政策提言

- ・エイズ動向委員会、薬事審議会医薬品第一部会、次期国民健康作り運動プラン策定専門委員会などに出席し専門的な立場から提言

【災害等への対応】

◆ 公衆衛生上の重大な危害への対応

- ・センター病院全職員を対象に災害訓練を実施
- ・災害マニュアルを改定し各職場へ配付
- ・NBC災害への対応マニュアルを改定
- ・新感染症の発生に向けた訓練の実施
- ・東日本大震災への対応



宮城県東松島市に医療支援チームを継続的に派遣

在宅被災者に対しての全戸別訪問による健康支援調査の実施

石巻地域へ心のケアチームを派遣

東松島復興支援プロジェクトとして、東松島市と保健衛生活動における復興対策のための協定書を締結

派遣者総数250名

（医師109名、看護・助産師60名、薬剤師30名、事務等51名）

【国際協力】

◆ 国際貢献

- ・アジア、アフリカ等の開発途上国における保健システムの強化を図るため専門家を派遣 115件
- ・アジア、アフリカ等の開発途上国からの研修生の受け入れ 202名
- ・国際機関、国際協力機構（JICA）等の調査研究・評価事業 36件
- ・国際保健基礎講座を開催（国内人材育成）253名
- ・国際保健医療協力研修を開催 10名
- ・医学生や看護学生を対象に国際保健に関する講義の実施 6大学
- ・長崎大学と連携大学院に関する医療協力に関する合意書を締結
- ・ベトナム・バックマイ病院に引き続きラオス・パスツール研究所及びマダガスカル・保健省公衆衛生局と医療協力に関する合意書を締結
- ・WHO協力センターのHIV/AIDS部門の技術パートナーとして国際会議に出席しHIV母子感染予防対策に参画



平成23年度における主な取り組み ~その4~

【HIV・エイズ】

◆ HIV・エイズ

- ・ HIV・エイズ患者の診療実績 入院患者数 延べ 8,000名
外来患者数 延べ 11,031名
- ・ その他外部からの診療等に関する相談件数 2,446件
- ・ 患者教育用小冊子（患者ノート）を配布 8,386冊
- ・ エイズ拠点病院などへの研修を実施
医師・看護師を対象とした研修を4回、専門薬剤師研修を2回、
歯科研修を4回、短期研修を1回
首都圏5カ所の都県病院に対する出張研修の実施
- ・ 医療従事者が自己研修ができるよう研修内容をE-learningの形で公開
- ・ ブロック拠点病院との連携支援
石川県立病院に対し医師を派遣し外来診療のサポート
名古屋医療センターと名古屋大学との合同会議に参加

【国立看護大学校】

◆ 看護に関する教育及び研究

- ・ 研究課程部に長期履修制度を5名が活用
- ・ 認定看護師教育課程等の開催
がん化学療法看護 15名
- ・ 短期研修の開催
10コース（対前年度+6コース）
482名参加
なお一部の研修は、地域医療における看護継続教育に貢献するため一般公開
- ・ オープンキャンパスの開催
看護学部 2回開催 652名参加
研究課程部 3回開催 24名参加
- ・ 公開講座の開催 2回開催 110名参加
- ・ 臨床看護研究推進センターにおいて、研究相談及び看護師が行う臨床看護研究の指導 19件
- ・ 研究の推進と研究成果を外部に周知し研究紀要を発行



【業務運営の効率化に向けた取り組みなど】

◆ 効率的な業務運営体制

- ・ 招へい型任期付職員、若手育成型任期付職員へ年俸制を導入
- ・ 研究者として高い知識を有する者など優秀な人材を公募により採用
公募による採用実績 29名（うち任期付研究員8名）
- ・ 監査室による内部監査の実施
- ・ H24.4からのDPC導入に向け、「DPC室」を設置し、DPC業務全般の内容精査などを行い、導入準備を行った。

◆ 効率化による収支改善

- ・ 6ナショナルセンターによる共同入札の実施
医薬品、検査試薬、医療材料
- ・ 経営改善についての職員研修の実施
- ・ 国府台病院との共同入札の実施
在宅医療機器賃貸借、レントゲンフィルム、精米
- ・ 棚卸しの見直し、業務内容の見直しによるコスト削減
- ・ 後発医薬品の利用促進のため後発医薬品切替候補品目を選定

◆ 電子化の推進による業務の効率化

- ・ 職員専用ホームページをリニューアルし機能の充実・利便性を向上
- ・ 外部からの不正アクセス防御のためのソフトを更新しセキュリティを向上

◆ 財務会計システム導入による月次決算の実施

- ・ 財務会計システムによる適正な会計処理の実施
- ・ 経営分析システムに電子カルテデータや物流データを連携をし、経営分析の精度向上を図った

◆ 法令遵守等内部統制の適切な構築

- ・ 内部統制体制の有効性に関する評価
- ・ 監事による業務監査・会計監査の実施
- ・ 外部監査人による会計監査の実施
- ・ 契約事務の競争性、公正性及び透明性の確保

NCGMの課題と展望、要望

✓社会的背景

高齢者を中心とした生活習慣病の背景を持った全身疾患を抱える患者層に対する総合的かつ高度先進的な医療や研究がますます重要。

✓NCGMの進化

変化する国民の健康上の課題に対して、NCGMは、その基本構造と様々な機能を十分に活かしつつ、機動的・効果的に進化し続けることにより、ミッション達成を目指すことが重要

Toward the Evolution ～進化を目指して～

NCGMのミッションの実現を目指した課題と展望を、

『①新たな体制整備、②基盤整備、③更なる努力』の3つの視点から
まとめた『重点アクション』を策定

※ これで全てとするものではなく、NCGMを取り巻く状況の変化などを踏まえ、臨機応変に対応していくもの。

要 望

1. 優秀な人材確保

一律の人件費削減を廃止し、研究開発型独法としての事業・性質に応じた適切な人材（人件費）の確保

2. 財政上の配慮

独法として効率的・自律的経営に取り組むことは当然であるが、一方で、運営費交付金の中期計画を大幅に上回る削減は、安定的・継続的な研究開発に支障を来すおそれがあるため、一定の財政上の配慮が必要。

2011-2014 Toward the Evolution～進化を目指して～

中期計画～Action Plan～

開発・研究

- ・研究所、糖尿病研究センター、肝炎・免疫研究センターにおける研究・開発の推進
- ・国際臨床研究センターにおける臨床研究の推進
- ・感染症、糖尿病・代謝性疾患、肝炎・免疫疾患等に係る戦略的、重点的研究・開発の推進

医療

- ・高度先駆的医療、標準化に資する医療の提供
- ・患者視点の良質かつ安全な医療の提供
- ・救急医療、精神科救急、海外渡航関連の医療の提供

人材育成

- ・リーダーとして活躍できる人材の育成
- ・HIV、新興・再興感染症、肝炎、糖尿病、精神疾患に関する研修・講習の実施

均てん化・情報発信

- ・HIV、感染症、肝炎、糖尿病、児童精神に関するネットワーク構築と情報収集・発信

政策提言

- ・HIV、糖尿病・代謝性疾患、肝炎に関する科学的見地からの専門的提言

医療政策の推進

- ・新感染症や災害をはじめとする重大な危害への対応
- ・国際医療協力、HIV・エイズ
- ・看護に関する教育・研究

業務運営の効率化等

- ・効率的な業務運営、電子化の推進
- ・法令遵守等内部統制の適切な構築
- ・財務基盤の強化に向けた予算、収支計画及び資金計画
- ・施設・設備整備に関する計画
- ・人事システムの最適化、人事に関する方針

2010

2011

2012

2013

2014

重点 Actions

New built-in system

開発医療部設置

- i) 早期探索的臨床試験、 ii) バイオバンク
- iii) 知財開発、 iv) CPC

Infrastructure development

(センター病院)
特定機能病院、DPC導入

(国府台病院) 新病棟、肝
炎免疫研究センターの整備

外来棟等の整備

診療科評価

看護職員確保(宿舍整備、離職防止、キャリアパス等)

職員能力開発

Further efforts

経常収支率100%以上、病院の収支相償の実現

ガバナンス及びコンプライアンスの強化

厳正かつ適正な調達の実施

ミッションの実現

開発医療の推進におけるビジョンと主な取り組み

➤エイズ・B型肝炎に係る創薬を実現

開発医療部に最適の人材を迎え、First in Human試験も視野に入れた早期探索的臨床試験体制の確立と活動を開始

➤バイオバンクの推進を目指して

開発医療部に2室設置と最適の人材を確保し、6ナショナルセンターが共同歩調を取りながら行うバイオバンク事業の本格的稼働を開始

